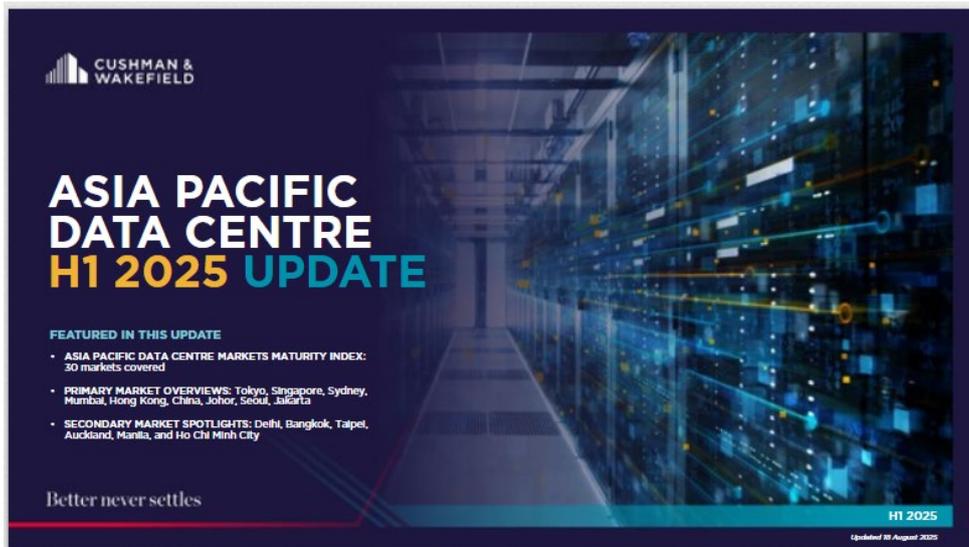


報道関係者各位

アジア太平洋地域はデータセンター拡張の勢いを維持

グローバル不動産総合サービス会社の[クッシュマン・アンド・ウェイクフィールド](#)（グローバル本社：米国イリノイ州シカゴ、日本本社：千代田区永田町、C&W）は、アジア太平洋データセンター2025年上半期[最新レポート](#)を発表致しました。本レポートでは、2025年上半期のアジア太平洋地域のデータセンター最新情報として、東京、シンガポール、シドニー、ムンバイ、香港、中国、ジョホール、ソウル、ジャカルタの8つの主要市場（都市）を網羅し、さらにバンコク、デリー、台北、オークランド、マニラ、ホーチミンの6都市の二次市場についても、現在での運用能力の規模順に概観しています。



ダウンロードは[こちら](#)から

主要指標およびセクター動向 2025年1月1日～6月30日：

- 現在の稼働容量は 12,634MW です。
- 開発パイプラインは上半期を通じて 2,282MW 増加し、16,620MW に達しました。
- この開発パイプラインは、建設中の 3,281MW と計画容量 13,339MW で構成されています。
- タイとマレーシアの合計で、この新規計画容量の 64%を占めました。

- これはタイの計画容量が 193%増加したことを示していますが、ベースが非常に低かったためであり、マレーシアの計画容量は 70%増加しました。
- 現在、この地域では 2025 年末までに供給予定の約 1,400MW の容量が活発に開発中です。
- 稼働総容量は 2025 年末までに 14 ギガワットを超える見込みです。
- 新規開発プロジェクトでは、AI ワークロードに対応可能な柔軟性を備えた設計がますます採用されています。
- 引き続き活発な設備投資活動が確認されており、その背景には以下の要因が挙げられます：
 - 積極的な資金調達活動
 - 事業者による新規開発用地および再開発可能性のある既存資産の継続的な取得
 - プライベート・エクイティによる継続的な買収活動

運用能力に基づく最大規模の市場

市場	運営能力
中国本土	4.6 GW
日本	1.5 GW
オーストラリア	1.3 GW
インド	1.3 GW
シンガポール	1.0 GW

レポートは、[こちら](#)からご覧いただけます。

クッシュマン・アンド・ウェイクフィールドの市況レポートは、[こちらの Web サイト](#)をご覧ください

-以上-

クッシュマン・アンド・ウェイクフィールドについて

クッシュマン・アンド・ウェイクフィールド（NYSE: CWK）は、クッシュマン・アンド・ウェイクフィールド（C&W）はニューヨーク取引証券所に上場している世界有数の事業用不動産サービス会社です。世界約 60 カ国、400 拠点に約 52,000 人の従業員を擁しています。施設管理、売買仲介、鑑定評価、テナントレップ、リーシング、プロジェクト・マネジメントなどのコア・サービス全体で、2024 年の売上高は 94 億ドルを記録しました。Better never settles という企業理念のもと、受賞歴のある企業文化が評価され、業界やビジネス界から数々の称賛を受けています。詳しくは、公式ホームページ www.cushmanwakefield.com にアクセス下さい。



メディア・コンタクト:

大谷 彩子

マーケティング&コミュニケーションズ

+81 3 3596 7045

saiko.otani@cushwake.com